

I.P.D.S.C. について

International Professional DanceSport Council

I P D S C は、2006 年 5 月に発足しました。

2006.12.12. Rome Italy にて 35 カ国が参加、 Founding Meeting が行われ、
(ヨーロッパ及び Asian Professional DanceSport Council の member による)
2007.6.9. バルセロナ・スペインにて国際専門家委員会が開催され、以下の役員
が決められ、定款・競技規則が策定されたのです。

会長 Peter Maxwell G.B.
副会長 John Kimmins U.S.A.
Shawn Tay Singapore
Daniele Tondon Italy. (現在は BDJ の田辺会長が副会長の一人)
General Secretary Michael Shelton G.B.
Treasurer Verewa Sulik Slovenia
DanceSport Director Tommy Shaughnesy Ireland
Prisidium Member Damilla Berger Switzerland
Roger Dolleans France Nadia Eftedal U.S.A.
Sasha Mmeinikov Russia Lasse Odegaard Austria
Sebastien Sanchez Spain

Objects Non-Partisan, non-Profit-making Body

目的 (徒党を組んだり、利益を目的とする団体ではない。WDC は株式会社)

to organize, represent, produce and promote Dance Sport for Professionals,
Athletes, Teachers, Coaches, according the I.P.D.S.C. rules.

(IPDSC のルールに適合して、プロフェッショナル、競技選手、教師、コーチーのために、ダンススポーツを組織化し、代表し、公にして前進させること。)

Statutes Article 1~22 までの規則があり、 1 カ国、1 団体が full member

2007 年 1 月 13~14 日 1st World Professional DanceSport Champ. を開催。
2008 年 1 月 12 日、スペイン (マドリード) 世界選手権 (S. & L.)
IPDSC と IDSF が共催する。カルロス・フレイタッグ(Freitag) IDSF 会長
及びピーター・マクスウエル IPDSC 会長の両名がチェアーマン。

07年6月14日のIPDSCのPresidentの書簡（IDSFとの関係について）

IPDSC is Special relationship with the IDSF of independence with co-operation can close that chapter and new, fresh way of life for all those involved with dance sport in every way.

（IPDSCはIDSFから独立した組織として、密接に助け合う特別な関係…。）

参考 ◎ 英国の国際的競技会の参加について

ブリティッシュ（ブラックプール）インターナショナル・チャンピオンシップ（ロンドン）
ユナイテッド・キングダム（ボーンマス）について 主催者は…、

Who have confirmed that IPDSC members will be welcome to participate in these events.

（これらのイベントにIPDSCのメンバーが参加することを歓迎すると彼らは約束した。）

対応について（私見）

WD/DSCは、ICBD発足以来、50年近くの歴史をもち、世界選手権大会を開催してきている。一方、IPDSCは未だ生まれて間もない団体ではあります。

然し、将来オリンピックにダンスが入ることになれば、IDSFと組んでいるIPDSCが俄然優位に立つことは間違いないと思われます。

現在、WD/DSCの日本の代表選手はJBDF、JDC、JCFの三団体（JNCPD）が行う統一全日本選手権大会で決められることになっています。

しかし、窓口はJDCにあり、JBDFは商標登録されている「全日本選手権」を提供しているのであって、これまで審査員・選手の派遣問題などで連盟がどれほど辛い目に会ってきたか、その横暴さは目に余るものがあった事は明らか。

将来の連盟・日本のダンス界にとって、世界での発言権の確保は重要な課題でとなりましょう。このまま、放置しておく、WDCと同じように、連盟はその下風に甘んじなければならなくなります。（1カ国、1団体の規定がある）

既に、JPBDAは、IPDSCに加盟申請を提出しましたが、IPDSCは日本の最大の団体である連盟の態度が決定するまで、正会員の決定を待ってくれることを連絡してきているのです。しかし、何時までも延ばすことはできません。

今、決断しないと、将来必ず後悔することになると確信しています。

選手にとっての問題点とその対応策

1. WD/DSCとは、今まで通り。国内では三者による「統一全日本選手権」を行い、世界選手権への代表選手を決定する。（連盟の方針とすること）

JNCPDは、覚書で三者の同意が無ければ何事も決定できない事になっている。

従って、連盟を追い出すことは出来ない。(連盟が退会したいと言わない限り)

選手は出場したい競技会を選べばよい。例えば WD/DSC の世界選手権大会に参加したければ、WD/DSC に今まで通り登録すればよいのであります。

IPDSC は、複数の団体に登録することを認めています。従って両方に登録すれば両方の世界選手権に出場できるようになるでしょう。(今後の問題)

2. 2 頁目にあるように、ブリティッシュ、U.K、インター等に出場することは問題ない。(英国の BCBd は WDC による規制を嫌悪している。O.B.の決定)

もしも問題が起きることがあれば、BDF その他に働きかけて、選手に迷惑が掛からない様に運動できるし、再度裁判に…！(今後の P.R.と折衝が大切)

当然、WDC にとっては死活問題であるから中川副会長を始め、圧力と反対運動をすることが予想されます。(私は近い将来 WDC は崩壊すると思うが)

イタリア、アメリカは既に IPDSC に加盟済み。ドイツはトラウツ氏によると近い内に加盟を予定しているとのこと。

残るダンス大国は、英国と日本となっている。英国は「BCBD」が確りしている為に、どちらに何時付くか、または両方に選手を派遣することもできる。

その為に、日本で最大の団体である JBDF が、WDC と IPDSC 両者の争いのキャスティング・ボートを握る事になるであろう。

では、国内的にはどうであろう。株式会社として利益を追求する WDC よりも、利益を求めない IPDSC の方が公益法人である JBDF としては馴染み易いのは当然である。

また IDSF は、車椅子ダンスやロックン・ロールなどと共に IPDSC を含めた 6 団体で WDSF(World DanceSport Federation)を設立し、そこにオリンピックの I.F.を移すことを約束している。

即ち、IDSF と協調関係にある IPDSC に加盟することにより念願であったオリンピックに選手を送ることも可能となる。

公益財団の認定を抱える連盟としても、JBDF と JDSF との話し合いが進み、プロ・アマの協調体制が取れば、その途も自ずと開けてくることになる。

自己崩壊に向かっている WDC よりも、将来性のある IPDSC を選ぶことが連盟にとって、より現実的であると言えよう。

例え、そうならなくても現状通り、WDC の世界選手権大会に連盟の選手が出場できることは「協定書」(三者による)によって覆すことは出来ないのでありますから…。

連盟、総局そして選手会が力を合わせ未来に向かって行く勇気が、今、試されているのです。